

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101458		
法人名	医療法人 街道会		
事業所名	グループホームあした葉		
所在地	島根県松江市雑賀町299番地		
自己評価作成日	平成23年2月2日	評価結果市町村受理日	平成23年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成23年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【理念:心身ともに安心して暮らせるように援助します】
 私たちは、あした葉と共に生活する利用者様とその家族の皆様の声に耳を傾け、健康で安心できる毎日をおくっていただくため、小林医院と連携し、日々努力しています。
 まず職員が笑顔でなければ、利用者様にも笑顔は生まれません。職員は利用者様と幸せな温かな時間を共有できることに感謝を忘れず、笑顔でおこたえます。
 今年度は地域の皆様のご協力により、避難訓練や心肺蘇生の訓練・緊急連絡網の整備もできました。今後はさらに地域の皆様との連携を強め、あした葉が雑賀町地区の安心できる街づくりに貢献できるよう努めたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人医師の開業医院である小林医院が隣接し、医療的なバックアップ体制がとられ、利用者・家族から「安心できる」との評価を得ている。入居者は年々重度化する傾向にあるが、一人ひとりの思いや暮らし方を大切に、きめ細やかなケアが行われている。
 運営推進会議を有効に活用し、施設の問題点や現状を率直に伝え、地域の協力を得て課題解決に努めている姿勢がうかがえる。今年度は緊急時の連絡網が確立し、有事の際には地域住民の協力を得られるようになった。
 職員、利用者の笑顔が多く見られ、明るく家庭的な雰囲気が印象的なホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関や居間に掲示し、朝礼時に毎日唱和して、理念を大切に日々のケアに取り組んでいる。	朝礼時の唱和やホーム内の掲示などで、理念を共有し、常に理念を意識したサービス提供が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、緊急時の協力関係も出来てきている。近隣の人と挨拶を交わしたり、野菜やウエスなどいただいたりしている。今年度は地域の行事(床凡山遠足)に参加できた。	自治会に加入し、地域の溝掃除などにも参加されている。地域行事の床凡山遠足では2名の利用者が参加し、地域の方の助けを受けて、最後まで登ることができた。また、普段から近隣の方が施設に立ち寄られたり、おすそ分けを頂くなど、良好な関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、『あした葉だより』を作成し利用者のご家族、地域住民の皆様に観覧して頂けるよう回覧している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度、奇数月の第3金曜日開催に固定し、年間6回の実施。避難訓練・心肺蘇生の訓練も実施した。地域の協力で緊急時の連絡網が確立した。参加できなかった方にも議事録をおくっている。	利用者家族へ毎回参加を呼びかけ、市町村担当者も含め、施設の現状を伝え率直な意見交換が行われている。	運営推進会議の中で、利用者家族から行政への提案等もあり、地域やホームの実情に合わせた柔軟な対応が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	近隣の方たちに説明と協力依頼を行い良好な関係作りを心掛けている。市・地域包括支援センターとは、都度連絡を取り合い連携を努めている。	市役所・地域包括支援センターの担当者と都度連絡、相談を行うことができています。日々の相談や運営推進会議などから、良好な協力関係がつけられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室には鍵はない。転倒事故等の防止のため、センサーマットを使用するなど工夫しながら介護をおこなっている。交番や地域との協力・応援体制も整備している。	屋外への徘徊者があるが、施錠等は一切行われていない。利用者・家族の同意のもと、交番へ入居者の顔写真を送り、所在不明時には協力を得られる体制作りが行われている。また、利用者の徘徊時の行き先は普段の会話や生活歴から見当をつけ、対応されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職員研修を行っている。 入浴時等身体観察を欠かさず行うようになっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に職員研修を行っている。ご家族にも入居時に十分な説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に十分な説明を行い理解して頂いた上で契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時、電話での連絡の時に意見を聞くようにしている。今年度は運営推進会議の前後の時間帯に来られている家族との面談を実施した。	運営推進会議に参加された家族と意見交換を行い、出された意見は早期に対応されている。	運営推進会議以外にも広く意見を聞く機会を設け、定期的にアンケートを実施するなど、家族等の意見や要望をできるだけ多く把握し、運営に反映するような取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別機会は設けていないが、日常の中で管理者に対し職員各々の意見を伝え易い雰囲気作りを行っている。	管理者は、日頃から意見や提案等何でも話してもらいようにスタッフへ言葉かけをしている。気づきのメモを入れる意見箱を設置している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会や講演会のパンフレット等を掲示し参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会で、研修の企画を行い毎回できるだけ多数の職員が参加できるようにした。また、懇親会への参加ができるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の思いや希望に沿った形でサービスが行えるよう日々しっかりと話を聞き、より良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等に家族様へ現在の生活状況をお伝えし、家族様意見等を聞くよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅へ訪問し本人様の生活状況を面接にて把握すると共に、本人様や御家族の思いや希望を聞くよう努めている。デイサービスの利用時からの状態把握が入居された時の混乱を無くしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とお話する際はゆっくりと聞き取りやすい言葉で話しかけ傾聴の気持ちを忘れず接するよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様がいつでも面会可能な体制を取り、面会時には生活の様子と新しい情報を交換すると共に、利用者様、家族様、職員が談笑できるような雰囲気づくりができています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の思いや要望を聞き、馴染みの美容院や墓参りに行くなど、馴染みの人や場所との関係が継続するように支援している。	昔なじみの親戚の家に行ったり、美容院や墓参りなどにでかけ、これまでの関係が途切れないように援助されている。また、県外の方からは、電話や手紙、はがきなどのやり取りが行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立するような状況ができないように職員が仲介に入り良い関係が築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、来訪できる環境ならば面会に行っている。尚、退所された利用者様、家族様にもいつでも遊びに来て頂けるようにと声を掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々のコミュニケーションの中で得た情報を記録や申し送り時に口頭にて職員間での共有をしている。	日々の関わりの中で、利用者の話した言葉を大切に、言われた言葉そのままを職員間で共有し、言葉の中にある「思い」を大切に考えた援助がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	記録、利用者様本人、家族様からの情報を統合し職員間で把握したものを生活し易い環境づくりに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様とのコミュニケーションの中からは些細な変化も見逃さないように職員間で連携を取り合い共有し把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの情報をもとに介護計画作成者が中心となり、担当職員、職員で話し合い作成している。定期的にモニタリングを行い必要時には見直している。	利用者、家族と話し合い、利用者本人の思いや暮らし方を大切にケアプランが作成され、日々の業務でプランを実践している。プラン作成時のカンファレンスに家族参加が得られない場合は、カンファレンスの記録を郵送するなどし、家族と一体となったサービス計画の作成が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録を確認し、気付いた事等を職員間で話し合い共有し、より良いサービスが提供できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族様の要望意見に沿える様、デイサービス・ショートステイを設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩を兼ね、近所の図書館を利用したり、祭りや行事への参加等、楽しみや刺激のある生活を送っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診支援をしている。法人の医師により月2回の往診や適切なアドバイスを受けている。	利用者の希望により決められた、かかりつけ医と連携して医療支援が行われている。法人医師の開業医院と隣接し、医療的なバックアップ体制がとられ、利用者家族から「安心できる」との声も聞かれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルや特変時の状況等を隣接した医院の看護職員に報告し専門職の指示を得て処置を行うなどの連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先と随時連絡を取り利用者様の情報を得て職員間で共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度、要介護5の方が3名となり、運営推進会議にてミキサー食の実演と試食をしてもらい、経口摂取による食事の重要性をばなした。嚥下体操も指導し、予防の大切さも共感してもらえた。	調査時にも1人の利用者を看取りケアされており、全体的に入居者は重度化の傾向にある。法人医師やかかりつけ医と連携し、状態変化に合わせたケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年度の教訓から、職員全員訓練実施を行った。今後も定期的に計画実施することとしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。日常生活に支障のない程度ではあるが、実際に利用者様の連れ出しもおこなっている。地域や近くのグループホームとの協力体制もできている。	年2回の避難訓練が行われている。また、今年度から地域の協力を得て、緊急時の連絡網が確立し、有事の際には地域住民の協力も得られるようになった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修で職員間の意志統一を図り利用者を尊重したケアを心がけている。職員は常に自分の立場だったらどう感じるかを援助の基本としている。	「相手が不快に思う行動や声掛けは絶対にしてはならない。」と管理者が全職員へ指導し、相手の立場に立った援助を心がけ、日々実践されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく会話をもつよう職員側から話しかけ、その中から利用者様の思いや希望要望を聞き出せるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	清掃等の業務を優先するのではなく、利用者の訴えを最優先事項とし対応するようにしている。職員間でも声を掛け合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みのある美容院に行っている。気に入った洋服をいつでも着ていただけるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなど利用者様と一緒にしている。また職員も同じメニューで共に食事を摂っている。	日々の食事は、利用者の方と一緒に準備や片づけを行うようにしている。調理は味見をしてもらうなどできる範囲で、参加してもらっている。また、天気の良い日には外で食事をしたり、ホットケーキ作りを行うなどして、食事を楽しむ工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と連携をとり、野菜中心で良質なたんぱく質のとれるメニューを立てている。食事、水分の摂取量を記録している。食事形態や量など体調に合わせた食事摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限り本人様にして頂き、職員が補助、介助を行う。利用者各々の口腔状況をチェックし日々の口腔ケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄支援に努め、重度の方でも座位がとれる利用者は、排泄習慣や排泄パターンを把握して、日中は2人介助で時間誘導し支援している。	利用者が重度化する中で、排泄パターンや残存機能を活かし、積極的に排泄の自立に向けた取り組みが行われている。日中はできるだけ、オムツを使用せず、トイレで排泄できるよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や毎日の水分量・乳製品の摂取等を行い自然排便して頂けるよう力を入れている。排便チェックは毎日確認できている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に合わせて毎日入浴や朝風呂、自立の方は夜間でも入浴を楽しむことができる。嫌いな方にも声かけや誘導方法などを工夫し、無理のない支援をしている。	希望されれば、いつでも入浴できるよう対応されており、毎日入浴や朝風呂など利用者ごとのニーズに合わせた対応が実践されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう日中なるべく起きて頂き整った生活のリズム作りを心掛けている。 寝付けない利用者様には職員が付添ったり添い寝するなど工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の介護記録と共に処方箋をファイルし効果や副作用、用法用量をいつでも把握できるようしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き等の役割を持って頂いたり、外出やレクリエーション等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や図書館へ行ったり、スーパーに買い物に出かけたり、天気の良い日にはベンチで日なたぼっこを楽しんでいる。また、行事等に合わせて普段行けない場所への外出など支援している。	宍道湖へのドライブ、斐川公園つつじ祭り、夕涼みなど季節を感じることでできる外出支援が行われている。また、日常的に散歩や買い物に出かけることで、地域の方との交流が自然体で行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は利用者様個人では頂いておらず、買物の時など必要な時に使えるよう管理し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される時は自由に電話を掛けて頂けるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるよう季節の花を飾ったり、季節に合った行事やレクリエーションを開催している。天気の良い日は玄関前にテーブルを出し、おやつを食べながら日光浴をしている。ソファや畳でくつろげるスペースを確保している。	居間は食堂に続き、調理の音や食事の香りが家庭的な雰囲気を感じさせる。廊下は広く、所々にソファやベンチが置かれ、利用者が思い思いに過ごせる空間となっている。	1Fの居間は、採光が摂りにくい環境でやや暗い印象がある。採光を取り入れるような何らかの工夫が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	冬季はこたつで横になったり、ソファにて本を読んだり他の利用者様と談話されたりと、自由に利用して頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込み、人形や家族の写真、自分の作品を飾ったり、居心地よく過ごせるように工夫している。家族の中には部屋に閉じこもらないようにとの希望で荷物のない部屋もある。	寝具や筆筒、写真や思い出の品々を持ち込まれ、暖かい雰囲気の居室が多く見受けられた。	馴染みの物の持ち込みが少ない利用者へも本人と担当職員が話し合い、居心地の良い、安心して過ごせる環境づくりを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理の味付け、盛り付け等、利用者様のADLも考慮しながらその方に合った仕事をして頂いている。		